

福岡県立小倉高校(通称:倉高)が私の母校です。倉高は、1947年、48年と夏の甲子園大会で連覇。優勝旗が初めて関門海峡を渡りました。マウンドの土をズボンのポケットに忍ばせた優勝投手の福岡一雄さんは、甲子園の土を最初に持ち帰った人とされています。また、早稲田大学応援歌の「コンパクトマーチ」を甲子園で初めて披露したのも倉高と言われています。春夏合わせて21回の甲子園出場経験があり、野球には特段の思い入れがある学校です。



田口 淳さん

忘れられないのは、入学してすぐの「応援練習」です。放課後の講堂に新入生450人が集められ、応援団の指導で、野球の応援方法を3日間叩き込まれます。校歌に追いつき、多くの応援歌があり、覚えるのも一苦労。応援団の先輩に指名されると、大声で歌います。間違えるとクラス全体の責任。本人は腕立て



中段右から2番目が田口さん

伏せ、クラスの仲間は片手をずっと上げたまま、正しく歌えるまで続けます。ふと気がつくと、応援団の先輩は新入生と一緒に腕立て伏せを繰り返して、手はずっと上げたまま。真剣勝負が続きます。講堂の後方席では、2、3年生数百人が見守ります。「まだまだ!」「声が出てない!」と先輩たちの声が響きます。何てひどい人たち、と憎らしく。でも3日目の最終日になると、新入生全員が大きな声で元気よく歌えるように。応援団長が「先輩諸君! これぞどうだ!!」と呼びかけると、2、3年生から拍手と歓声が沸き起こりました。本当の倉高生になった瞬間でした。

北九州から遠く離れた東京でも、会社や得意先で倉高同窓生に出会います。厳しい校則のせいか、窮屈な思いをした人も多いようですが、私にとっては最高の高校生活でした。

「福岡小倉高校」忘れられない「応援練習」

私の母校は、急激な生徒増のため昭和40年代に多く設立された都立高校の一つで、当時、私の代でもまだ8期目という若い高校であった。1クラス45人、1学年10クラスで、とにかく生徒が多かったが、堤防を挟んで多摩川という立地で、グラウンドも比較的広かったせいとか、閉塞感や暑苦しさはなく、暑い夏でも窓を全開にしていればそれなりに涼しかった。



松永 光智さん



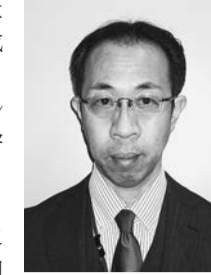
放課後にギターを弾く松永さん

一コマ50分の授業は学年を経ることに苦痛(笑)になっていったが、放課後に教室で友人とギターをガチャガチャ鳴らしていたことなどはよく記憶に残っている。また、階段の踊り場から多摩川の向こうに見える富士山が、冬場の夕日に映えて大変美しかったことは忘れられない思い出だ。卒業から40年近く経つが、未だに数年に一度、クラス会が催され担任教師を

東京都財務局経理部 契約第一課長 松永 光智さん

交えて旧交を温めてきた。会えば昔よりは年相応になったが、しっかりと若かりし頃の面影もクラスメートの顔に浮かぶ。一緒に居た時間は短かったが、濃密な時間だったのだなと思わずにはいられない。小田急線で多摩川を渡るたびに、ついつい母校を目で追ってしまふ。数年前に体育館棟が改築された一方、校舎棟は竣工から50年近く、未だ改築されずに外観はほぼ在校生のままで。しかし順番が来れば今後、遠からず建替えられるのであろう。後輩達の教育環境を考えれば改築は喜ばしいことなのだが、一方で在校生の面影をそのまま残す校舎が無くなるのは寂しいなあ、とやや感傷的になりがちな今日この頃である。

1974年に設置された都立高島高校。私が入学した頃は開校10年余りであり、都立ではまだ新設校と言われ人気があった。中学がとてんで荒れていて、当時仲の良かった友達グループと話し合い、学校の新しさもあり、皆で揃って進学した。



長谷川 昌之さん



運動会にクラス全員と(前列中央の白Tシャツが長谷川さん)

都立の強豪校として強かった野球部員が、学年の各クラス委員を占拠する慣例のようなものがあった。これに反発し、入学して最初のホームルームに中学時代の仲間と結託して、クラス委員に皆で立候補した。当時10クラスあったうちの3クラスを制覇した記憶がある。私も最初のクラス委員になったが、後期では野球部員にあっけなく譲り渡した。23区内の高校にしては広い校庭で、少しだけかじっていたサッカーをしたい

東京都中央卸売市場事業部 施設課長 長谷川 昌之さん

と思い、サッカー部に入部したが1年も続かなかった。何をしたいのか、目的意識のないまま中学時代からの友人たちとつるんでいるだけの日々が続いた。高校2年になり、運動会の最後を飾る競技である全学年30クラス対抗駅伝(学校の外を回ってタスキをつなぐ)の代表に選ばれ、3位に入賞した。その後の打ち上げなどを通じてクラスがまとまり、文化祭、修学旅行も同じクラスのメンバーで、萩・津和野と広島市の平和記念公園などを巡った。この修学旅行を通じて、今も交流のある新たな友人たちができた。そして、平和記念資料館や原爆ドームといった建物の持つメッセージ性に感動して、建築の道を目指すことも決めた。あれから30年以上経った今も建築大好き人間として、いわゆる役所の公務員を卒業して、プライベートでも海外の建築見聞に情を出す自分がいる。

「都立高島高校」修学旅行が建築への道へ

昭和54年4月、法政大学に入学した私は何かの間違いか応援団に入団してしまいました。多分当時流行っていた「嗚呼花の応援団」という漫画の影響かもしれません。



岩田 恵吾さん

当時、東京六大学野球で法政大学野球部は花の49年組と呼ばれた江川卓氏は甲子園のスター選手が抜けてしまい、2年連続で優勝出来ませんでした。しかし私の現役中2年の秋、3年の秋、4年の春とリーグ戦で優勝することが出来ました。特に4年の春のリーグ戦は10戦全勝勝ち点5という成績で優勝を飾り、全日本選手権大会でも優勝しました。当時の野球部のメンバーを見るとPL学園の優勝バッテリー 木戸 西田を始め、小早川 南宇和の田中富雄 浜松商の樽井 首位打者金子利夫 作新の神長 報徳の手嶋 日藤の和田護 浪商の木村 高知の伊吹淳一 中京商の山

法政大学応援団 法友富士見会長 岩田 恵吾さん



左から3番目が岩田さん

中といった超豪華メンバーでした。写真は神宮球場での得点を挙げた校歌のシーンです。現在東京六大学野球は各校努力の賜物で我が母校もなかなか優勝できなくなりましたがそれでも46回(早稲田と同じ)は最多勝です。コロナ禍でリーグ戦も通常の形で開催出来てはいませんが、今でも学生を動員した形をとれなかったため、現役諸君には気の毒だったと思います。今年も優勝出来ますようにと祈る毎日で。

「法政大学」応援団に捧げた4年間

# 我が母校

## 青春時代 思い出の1枚

新年明けましておめでとうございます。今年のお正月はどのようにお過ごしになりましたか。帰省して普段あまり会えない友人と旧交を温める機会を持った方もいるかと思いますが、今回「我が母校：青春時代思い出の1枚」と題し、懐かしい青春時代を当時の写真と共に8名の方に振り返ってもらいました。

平成7年4月。当時県内屈指の野球強豪校だった、愛媛県立松山商業高等学校へ入学し、同時に野球部に入部した。



新田 浩貴さん

少年時代から、甲子園大会に出場する事を夢見て野球を続けてきた私だが、厳しい練習で有名だった松山商業野球部に入部し、甲子園を目指す姿など一度も思い描いた事はなかった。理由は、猛練習に耐え3年間野球を続ける自信など全くなかったからだ。そんな理由から、甲子園出場の夢が遠のいても、普通科の高校へ進学して野球をしようと受験勉強をしていた中学3年生の冬に、中学時代の監督、コーチに説教され、決意が固まらぬまま松山商業を受験し、見事合格してしまったのであった(苦笑)

谷沢建設株式会社 リノベーション部 部長 新田 浩貴さん



中段1番右側が新田さん

毎年、野球部入部希望者は入学前の春休みにグラウンドに集められる事になっていて、初日は練習を見学するだけだったが、それだけでなく翌日から練習に来なくなってしまう者もいたほど想像を絶する練習風景に衝撃を受けたことは今でも鮮明に覚えている。30名程いた同級生は、あつという間に10数名になってしまったが、私にとっては、苦業を共にして3年間野球を続けてきた、かけがえのない仲間だ。夢だった甲子園には春1度、夏2度も出場する事ができ、平成8年夏の甲子園決勝戦で「奇跡のバックホーム」として今でも語り継がれている大変な試合も経験させてもらった。それでも、仲間と飲む酒のつまみは、卒業して20年以上経った今も決まって野球部時代の苦しかった思い出ばかりだ。

「松山商業高校」甲子園決勝での奇跡のバックホーム

野球を始めた幼い頃からの目標「甲子園出場」を目指し、今から10年前、千葉県木更津市にある拓殖大学紅陵高等学校に入学、同時に実家を離れ寮生活がスタートしました。ただ一つの目標のために、全国から集った仲間とは日々の練習はもちろんのこと、学校の授業、食事や風呂など全ての時間を共に過ごし、練習には100名近い部員と互いに切磋琢磨しあい、毎日とにかく必死でした。特に冬の早朝練習は、母校拓殖大紅陵の名物でもあり真冬の深夜3時に始まります。汗が蒸発して湯気がたち、意識が朦朧としてくる練習を全員で乗り越えた達成感は、今でも鮮明に覚えています。寮生活においては、普段の私生活だけでは学ぶことのできない、目上の方に対する気遣いや、礼儀を学び、何処にいても息つく間がなかったですが、先輩に内緒で禁止されていた炭酸ジュース、カップラーメンを隠れて飲



榎垣 光樹さん

三井住友建設(株)東京建築支店 営業第一部 榎垣 光樹さん



左側が榎垣さん

んだり食べたりすることが楽しみでした(はれたら色々大変ですが...)。また、武道系の部活動にも力を入れている高校でしたので、当時の寮には野球部員だけでなく、空手、柔道、相撲部の部員も多数おり、寮内はまさにジャングルのような環境でしたが、今思えば寮生ならではの楽しみなどもあり、良い経験ができたと思います。結局、3年間のうち目標であった甲子園出場は叶いませんでしたが、共に喜びや悔しさなど全てを分かち合った掛け替えのない大切な仲間とは、今でも折折集まると当時の懐かしい話で盛り上がり、高校野球の3年間で培ったことは、社会人になった私の大きな支えとなっており、辛い時こそ、今後もこの経験を活かしていきたいと思えます。

「拓大紅陵高校」寮生活で掛け替えのない仲間と

私の青春時代の思い出は、都立北園高等学校から始めたラグビーです。



反町 英典さん



大学時代の反町さん(手前中央)

見た目にハードなラグビー。2か月でそれが見た目だけではないことを体感する洗礼を受けました。足首を骨折してしまったのです。通学は電車でしたが、バリアフリーが今のようには整備されていない時代。辛くて涙を流しながら通っていたことを今でも覚えています。それでも「走れないなら、上半身を強化しよう。」と前を向いて鉄アレーを購入し、毎日体を鍛えました。が、今度は鉄アレーを自分で落とし、指をつぶして確う羽目に。スタートは悪かったのですが、仲間にも恵まれ、その後は「スクラムを7人で組む」など強くなるために試行錯誤を繰り返したラグビー一色の3年間でした。卒業後も大学や社会人クラブチームでラグビーを続け、2019年のラグビーワールドカップを迎えました。私も開幕戦の「日本vsロシア」を味の素スタジアムで観戦しました。割れんばかりの歓声の中、日本が勝利。でも日本の勝利よりも、あまり人気のなかったラグビーが日本全体で盛り上がったことが一番うれしかったです。高校で出会ったラグビーに今も嵌まっているということでしょうか。高校から体に叩き込まれた「One for all, All for one.」の精神。これからも仕事に、プライベートにこの精神を柱に過ごしていきたいと思っています。

台東区総務部施設課 課長 反町 英典さん

私の母校である神奈川県立鎌倉高等学校(通称・鎌高)は、関東の駅百選に選定された江ノ島電鉄鎌倉高校前駅から日坂(にっさか)という坂を上ったところにある。校舎の正面には相模湾が、一部の教室からは海が見渡せた。右手には富士山と江ノ島、左手には稲村ヶ崎から三浦半島を一望でき、正面には大島、天気の良い日は三宅島まで望める県下有数の景勝の地にある。今ではアニメの聖地となっているとのことだが、アニメが放映されたのは私が鎌高を卒業した後のことである。当時もドラマや映画の撮影が学校の周囲でよく行われていた。



吉田 順一さん

東京都財務局建築保全部 機軸技術 吉田 順一さん



山岳部時代の吉田さん(後方の尖った所が槍ヶ岳)

鎌高に入部すると山岳部に入り、最初の夏合宿で北アルプスを縦走して槍ヶ岳に登った。その日の朝、迎えた御来光にとても感動したことを覚えている。山岳部は諸事情により1年限りで辞めて文化系の部活に入ったが、鎌高は各種学校行事などが盛んで、毎日充実した学生生活を送っていた。忘れられない思い出のひとつに文化祭や体育祭の後夜祭がある。鎌高では隔年で秋に文化祭・体育祭が行われたが、その後夜祭では1年生から3年生の同じクラスの生徒が1つのチームを作り、グラウンドの中央に設けた巨大キャンプファイヤーのような焚火の周囲で、全生徒がフォークダンスや創作ダンスを踊った。その練習と称して、山岳部時代の吉田さん(後方の尖った所が槍ヶ岳) 毎日、放課後に七里が浜海岸の駐車場に集まり、終電近くまでみんなで踊ったことが懐かしい。青春を謳歌したあの日々は、今となっては何物にも代えがたい貴重な3年間だった。高校を卒業してから30年以上経つが、今でも時々、鎌高の海を眺めに行っては元気をもらっている。

「神奈川県立鎌倉高校」青春を謳歌した貴重な高校時代

<p>賀正</p>	<p>練馬建設株式会社</p> <p>代表取締役 宮坂 武朗</p> <p>東京都練馬区小竹町一丁目九番九号</p> <p>TEL:03-3977-0000</p> <p>FAX:03-3977-0011</p>	<p>松本建設</p> <p>代表取締役 松本 力</p> <p>東京都豊島区東池袋五丁目一五番一五号</p> <p>TEL:03-3591-5115</p>	<p>東武谷内田建設</p> <p>代表取締役 谷内田 良吉</p> <p>本社事務所 東京都豊島区東池袋三丁目三番八号</p> <p>TEL:03-3591-5115</p> <p>FAX:03-3591-5116</p>	<p>イチゲミ</p> <p>代表取締役 西野 輝彦</p> <p>東京都江川区東葛西六丁目一五番三十三号</p> <p>TEL:03-3618-0344</p>	<p>大正建設</p> <p>代表取締役 小川 正允</p> <p>東京都墨田区太平四丁目一十二番二五号</p> <p>TEL:03-3644-5521</p> <p>FAX:03-3644-5522</p>	<p>岡建工株式会社</p> <p>代表取締役 岡本 恵子</p> <p>東京都墨田区東葛西一丁目一五番九号</p> <p>TEL:03-3644-5521</p>	<p>鉄進興工業社</p> <p>代表取締役 若月 和二</p> <p>東京都荒川区西新橋五丁目一〇番一〇号</p> <p>TEL:03-3891-0755</p>	<p>小俣建設工業</p> <p>代表取締役 松尾 光徳</p> <p>東京都世田谷区上馬四丁目二六番一四号</p> <p>TEL:03-3410-3911</p>	<p>株式会社ノバック</p> <p>代表取締役 本長 原子</p> <p>東京都港区西新橋三丁目二〇番一〇号</p> <p>TEL:03-3577-3211</p>	<p>株式会社東工務店</p> <p>代表取締役 小根 澤美和</p> <p>東京都荒川区東尾久三丁目九番一五号</p> <p>TEL:03-3895-9178</p>	<p>株式会社 凌祥</p> <p>代表取締役 吉田 直弘</p> <p>東京都中央区日本橋二丁目一〇番一〇号</p> <p>TEL:03-3610-9500</p>
-----------	--	---	--	---	--	--	--	--	---	--	---